

主な出来事

【内政】

- 与党議員, 刺殺
- 与党BDP, 予備選を実施

【外政】

- ボツワナ, トランプ米大統領発言を非難
- モハエ前大統領, 南スーダン合同監視評価委員会の任期を満了
- 天野 IAEA 事務局長のボツワナ訪問
- マシシ副大統領, AUサミットに出席

【経済】

- 北西送電網整備計画の開始
- 世界銀行, ボツワナの成長予測を上方修正

【内政】

○ 与党議員, 刺殺

14日, アイザック・デービス国民議会議員が遺体となって農園で発見された。使用人との口論の末に鋭利な物で刺されたと見られる。容疑者とみられるジンバブエ人とボツワナ人の使用人2名は現在警察により拘束されている。同議員は、2014年総選挙で野党連合「民主改革のためのアンブレラ(UDC)」から出馬しモチュディ東区で当選。昨年, 与党に所属を鞍替えしていた。(15, 16日: デイリー・ニュース紙、モニター紙)

○ 与党BDP, 予備選を実施

20日, 与党ボツワナ民主党(BDP)は2019年総選挙に向けた予備選を実施。前回選挙で野党が勝利した10地区を含む18地区(当館注: 総選挙区数は57)で与党から出馬する候補者が決定した。その他の選挙区の予備選は8月に行われる予定。(18~22日: デイリー・ニュース紙, モニター紙他)

○ 野党連合, 選挙区の割り振りを見直し

ドゥマ・ボコ野党連合代表は、野党連合に加盟する各党からの強い要望により、選挙区の割り振りを見直す旨発表した。同氏は、現在、各党からの推薦者を審査しており、2019年総選挙に向け最良の候補者を立てると語った。また、同代表は、昨年末に結成された革新連合(AP)に対して、選挙区を割り振る用意があるとして、野党連合への参画を呼びかけた。(20日: ウィークエンド・ポスト紙)

○ 政府, 補欠選挙での電子投票機の使用を計画

政府は、モシュパ・マニャナ選挙区の補欠選挙で電子投票機(EVM)を試験的に運用する計画を

明らかにした。同選挙区ではマシシ副大統領が選出されているが、4月に大統領に自動昇格することから、空席となる予定。他方、EVMの導入を巡って野党ボツワナ会議党(BCP)が独立選挙委員会(IEC)を提訴したことで、未だEVMの調達も停止されており、政府が裁判に負ければ調達が遅れ、試験運用も困難となる見込み。(29日:ウィークエンド・ポスト紙)

【外交】

○ ボツワナ、トランプ米大統領発言を非難

トランプ米大統領がアフリカ諸国を中傷する発言をしたことに対し、15日、ボツワナ政府は米大使を呼び出し抗議したと発表した。また、ボツワナは、SADC、AU及び世界各国に対して、トランプ大統領の発言を非難するよう呼びかけた。(15日:デイリー・ニュース紙)

○ モハエ前大統領、南スーダン合同監視評価委員会の任期を満了

1月、モハエ前大統領は、南スーダンにおける停戦監視団である「合同監視評価委員会(JMEC)」代表としての任期を終える。同氏は、2015年8月に署名された南スーダン和平協定でAU委員会により同職に任命されたが、南スーダンのキール大統領とマシャール副大統領による度重なる協定違反とAUからの支援不足により和解が進まないことに不満を抱いていた。南スーダンから帰国した同氏は国連安全保障理事会で最後の挨拶を行う予定。(17日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ 天野 IAEA 事務局長のボツワナ訪問

25日、ボツワナ訪問中の天野IAEA事務局長はマシシ副大統領を表敬し、IAEAの活動及びボツワナとの協力関係につき協議した。マシシ副大統領は、核の脅威となるような兵器や科学技術は使用しておらず、IAEAの活動を支援する旨述べた。天野事務局長は、IAEAが核医学や放射線医療でボツワナ大学を支援している旨述べた。(26日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ副大統領、AU総会に出席

28～29日、マシシ副大統領はエチオピアのアジスアベバで開催される第30回AU総会にボツワナ・ミッション代表として出席した。(26, 31日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2017年第3四半期の経済成長率は、前期比6.5%(2017年第2四半期の経済成長率は、前期比0.4%)。

2)インフレ率(出典:ボツワナ銀行)

2018年1月は3.1%(2017年12月は3.2%)。

3)為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2018年1月31日	2017年12月29日
1プラ=0.102米ドル	1プラ=0.099米ドル
1プラ=1.196南ア・ランド	1プラ=1.206南ア・ランド
1プラ=11.16円	1プラ=11.22円

○ エネルギー・資源

1)北西送電網整備計画の開始

22日、北西送電網整備計画が正式に開始された。48億プラ規模で二つのフェーズに分けて実施される同計画の開始式にはケボナン鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣、シュワルツフィッシャー・ボツワナ電力公社(BPC)CEO等が出席した。同計画のフェーズ1ではモルプレB石炭火力発電所からオラパを経由し、マウンまでの400kVの送電網を整備し、2つの変電所の整備に加え、トテン、ハンツイ、シャカウエ、フマレに接続している変電所及び200kV/132kVの送電線を400kVの送電線に接続する予定。(24日:デイリー・ニュース紙)

○ 為替バスケット比重の維持及びクローリング率の変更

ボツワナ銀行は、現状の為替バスケットの比重南ア・ランド45%、特別引出権(SDR)55%を維持することを発表した。一方、クローリング率は1月1日付けで年率0.26%から0.30%に変更された(当館注:主要貿易相手国とボツワナとのインフレ率格差(予測値)を考慮に入れて、実質為替相場を安定化させるために、あらかじめ決定した固定の変化率で名目為替相場を変化させる。クローリング率はその変化率をいう。)(12月29日:ボツワナ銀行)

○ 国家石油基金の公金の銀行及び投資機関からの引き出し

国家石油基金の公金横領疑惑を受け、鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障省エネルギー局は、石油小売企業への返金や石油備蓄施設の建設等に使用される国家石油基金の公金を銀行及び投資機関から引き出し、ボツワナ銀行の政府公金口座に移した旨発表した。(5日:デイリー・ニュース紙)

○ 世界銀行、ボツワナの成長予測を上方修正

世界銀行は、10日に発表した世界経済の見通しに係る報告書の中で2018年のボツワナの経済成長率を昨年6月に予測した4.2%から4.7%に上方修正した。(12日:メヒ紙)